

〈実践報告〉

古典に親しませるために

——〈徒然草第五十三段〉の授業実践報告——

中 西 由 紀 夫

一 徒然草第五十三段を授業で、とりあげたそのねらい

中学教師として、現在九年目を迎える。その間、各学年で古典を教える機会があった。

先輩教師の授業や、他校の研究授業を参考にして、行ってきた自分の授業のパターンは、

①古文を範読し（あるいはテープを聞かせて）斉読をくりかえし行い、場合によっては暗唱させる。

②古文をそっくりノートに書き写させる。現代語訳が付いてる場合は、それも一緒に。

③教科書の脚注を参考にして、現代語訳を考えさせる。ただし進度の関係で、授業を急ぐ場合は現代語訳を板書して、ノートに写させる時もあった。

④作者名、作品成立年代、説話文学か、軍記かといった文学史の知識を記憶させる。

⑤係り結びなどの用語を記憶させる。

⑥内容に応じて作者の考え方、登場人物の心理をつかませる。作品の読後感を書かせる。時には情景のイラストを描かせる。

以上①～⑥のことに、作品や作者に関連したエピソード、当時の武具や衣装の説明を、掛図をもちいたりユーモアをまじえたりして生徒に話していた。

九年間で多少の技術を身につけたつもりではあるが、題材によってはユーモアのまじえようがなかったり、定期テストや入試に必要な知識の詰込みで終わってしまう場合がある。

“本当に生徒は古典に親しみを持つことができたか？”

“授業によって古典ぎらいにはしていないか？”

と、生徒達の表情を見ながら悩み続けてきた。

自分自身、高校時代は、古典授業は、睡眠時間であったが、予備校の名物講師の講義には目を輝かせていたことを思いだし、やはり授業者の力量や人柄に左右されるのかと考えてしま

う。

勤務校の地域性も影響してるかもしれないが、生徒が古典に
なじまない背景として

○テレビなどで時代劇や歴史劇を見ない。(またこのごろ時代
劇もあまり作られていないし……)教材とは直接結びつか
なくても、昔への興味がわくきっかけがない。

○読書量が少ない。今の生徒が読むのは、赤川次郎やアニメを
小説化したものが多く、児童生徒向きに書きなおされている
古典を読むことがほとんどないようである。

○昔話を知らない。極端な場合、「牛若丸と弁慶」京の五条の
橋の上」を知らない生徒がいる。

等があげられる。

「古典がおもしろい」ためには、まず「おもしろい内容」を選
ばなければならない。

現在、勤務校では光村図書の教科書を使用している。

第二学年の古典教材としては、

・平家物語 「扇的」

・徒然草 第十一段「神無月のころ」第五十二段「仁和寺

にある法師」

第八十九段「猫また」

・漢詩

唐詩。杜甫「絶句」

王維「鹿柴」

その他

が使われている。

第十一段「神無月のころ」は作者の人生観、生活観などをと
らえさせる内容で、決しておろそかにできないが、しかし「生
徒の興味をひきつけ、徒然草に親しませる」おもしろさを持っ
ているかどうか少し不安を感じたのが、第五十三段をとりあ
げた動機である。

鼎をかぶった法師がぬけなくなり、苦しんだあげく、無理に
引きぬいて耳と鼻を失ない、わずらってしまおうという有名な話
だが、現在教科書にはとりあげられていない。

しかし、自分自身がこの内容に強烈な印象を抱いているの
で、徒然草入門の意味で生徒にぶつけてみた。

二 実践にあたって

原文は、角川書店刊の「徒然草全注釈」から、書き写し、鼎
のイラストもそこからコピーをとった。

「テストをかんがえない授業」であり、「古典に親しむ」こ
とを目的とする上で、

○逐語的現代語訳は避け、最低限のストーリーをつかませる。

○斉読をくりかえすことにより、生徒に古文になじませるとと
もに、音読だけでストーリーをつかめるようにさせる。

○ストーリーを途中で打ち切り、生徒に結末を考えさせる。

○結末を教えた後、主人公の気持ちを考えさせる。

「講義形式」や「ピンポン式」にならぬよう、作業プリントを
作り、かつ発問はしぼった。

三 授業の展開

まず兼好法師についての知識、作品の時代背景を説明したあと、作業プリントを渡した。
プリント①

<p>(上段) 原文 これも仁和寺の法師</p>	<p>(下段) 発問 ○仁和寺で稚児が僧侶になる別れということ、僧たちがパーティーをひらいたその時一人の僧が()をかぶって()、おおいにうけた。</p>
<p>……聞くと覚え ず」まで ○医者はんといいま したか？</p>	<p>○そのあと、その僧は、どうなりましたか？ ○その僧は、どういう格好で、どこかへつれていれましたか？</p>
<p>足鼎のイラスト ↑ ○</p>	

- ・ 原文を数回精読。
- ・ 稚児とか鼎とかについての説明。
- ・ 発問をひととおり記入させ、挙手あるいは指名で生徒に発表させ、補足説明を手近なバケツを目の前の生徒にかぶせたりして行った。

プリント②

- ・ このあと僧はどうなったでしょうか想像して書きなさい。

- ・ あえて結末を伏せて、生徒に考えさせ記入させた。

(この時代、金属を切る道具たとえばヤスリのようなものはなかったかという……素朴な質問を生徒に投げかけた。この答えはまだ発見していない。)

- ・ 記入させた後回収して、できるかぎり生徒に読んで聞かせた。

例A 何も食べられず、何も飲めないで飢えて死んでしまった。

例B 悲観して、首を吊る、切腹する、入水するなどして自殺してしまふ。

例C 鼎に何とか目と口の部分に穴をあけ、鼎仮面として生き続けた。

例D 飲み食いでできないでフラフラさまよい歩き、大岩に頭をぶつける。そのショックで鼎が割れて助かる。

例Cのようなユニークなもの、例Dのようなストーリー性をもつものも見かけたがその他は安易に、短絡的に死と結びつけ

てしまう。この年齢では仕方のないことか。

・以上の例を紹介した後、「実は、この話には結末があるので
す。」と切りだしてプリント③を配布した。

プリント③

(上段)

原文

かかるほどに……

……………久しく

痛みいたりけり。

(下段)

現代語訳

・結末はあえて現代語訳をそえて、すぐに内容をつかめるよう
にした。

斉読は三回させた。

・しかる後プリント④を配布した。

プリント④

イラスト

この僧の一人言を想像して書き
なさい。(僧になった気持ちで)

・これも回収して、次の時間に生徒達に紹介した。

例 A 耳と鼻は失い、おまけに病になってしまった。私はど
うしてあんなことをしてしまったんだろう。

例 B みんなにうけるために、あんなことをして、耳と鼻が
なくなってしまった。あんなことしなければよかつた。
でも命が助かったからよかった。

例 C 私はどうやって生きていこう。死んだほうがましだつた。

だいたい悲嘆にくれた内容のものが多かった。

※イラストは、耳と鼻を失った僧を想像させて描かせた。顔中
を包帯でグルグル巻きにして、布団によこたわり、両眼から
涙を流している図がやや多い。ほかに耳と鼻のところがポツ
カリ穴のあいた状態で一人放心して佇んでいる図も結構あつた。
(達観したのか、ほほえんでいる図もみかけた。)

※今の生徒にとって、「耳鼻かけうげ」という部分は感覚とし
て気持ち悪いものではないかと思われる。次の機会に、その
部分を残酷な感じとしてとらえているか、問うてみたい。

四 ふりかえてみて

この授業を校内研究授業で実践したところ研究部会で次の意見
が寄せられた。

・音読を重視しているのは良いが、そのペースが早すぎる。

(一行ごとに範読しては、その後を斉読させるのだが、生徒
が読みおわらぬうちに、次の行を範読しはじめてしまう。)

・「バーティー」「みんなにうけた」稚児の説明で「ボーイ」
など、安易な言葉を使いすぎる、古典の雰囲気をごわしてし
まう。

・作業プリントをつかってはいるが、まだまだ授業者の説明が多
い。(おもしろいけれど)

・(この内容を研究授業でした時は、一時間でやってしまった

ので)内容が多すぎはしないか。

・生徒に想像させるのを主眼にするなら、古文を渡すよりも、そのまま現代語訳を見せたほうが早いのでは……、

と、未熟な点をつかれた。

この授業をうけた生徒たちは、今年高校三年になるが、私のバケツを使った説明が大爆笑だったのと、ストーリーの奇異さから、いまだによく覚えていてくれる。

教科部会で、「原文を与えるよりも、現代語訳を見せたほうが早いのでは？」という意見が出されたが、これは古典の教育の根本にふれる問題ではないかと思われるがここでは紙面を割くのは避けたい。

現在、三年生と二年生を受持っており、今後もういった「興味をもてる入門的な教材」を教科書外からもさがしていくつもりである。

そのほかに実践したいものとして、「兼好法師の暗号」がある。

兼好法師が歌友の頼阿に送った歌で、沓かぶりというやりかたで、たくみに米と銭の無心の内容を入れたものがある。

よもすずし ねざめのかりほ

たまくらも まそでもあきに

へだてなきかぜ

下線部を組合わせて読んでいくと、
よねたまへ、ぜにもほし
となる。

これに対して、頼阿の返歌も、
よるもうし ねたくわがせこ

はてはこず ねおざりにだに

し ばしとひませ

これも同じように

よねはなし ぜにすこし

となる。

これをクイズ形式のようにして、生徒に紹介するつもりである。

(なお、これは永積安明先生の「徒然草を読む」岩波新書の内容を参考にしている)

発見や驚きは、生徒を授業に引きつける上で重要なものだが、それには常日頃の読書による知識の積重ねが必要なのはいうまでもない。教師自身がまず発見をしなくてはならないと思う。

(埼玉県戸田市立美笹中学校)